

## 第2回城陽市東部丘陵地整備推進協議会の結果概要について

◆日時：平成29年8月23日（水曜）13時30分から14時30分

◆場所：京都府庁1号館3階会議室

◆出席者

（京都府）山下副知事、川口政策企画部長、岡本山城広域振興局長、藤森建設交通部技監、  
平井商工労働観光部学研都市・ものづくり推進監

（城陽市）奥田市長、今西副市長

（参画団体）堀井城陽商工会議所会頭、小林城陽山砂利採取地整備公社常務理事、桧原近  
畿砂利協同組合理事長

アドバイザー（学識経験者）村橋城陽市東部丘陵地整備委員会委員長

オブザーバー（参画機関）田中国土交通省近畿地方整備局京都国道事務所長、西岡西日本  
高速道路株式会社関西支社新名神京都事務所長

オブザーバー（長池先行整備地区進出候補事業者）岩田三菱地所株式会社執行役専務  
事務局 京都府政策企画部、城陽市まちづくり活性部

◆概要

### 1 報告事項

#### (1) 城陽市東部丘陵地のまちづくりについて

○別添の資料2、資料3、資料4により城陽市から説明。

### 2 意見交換

- ・アウトレットモールを立地する上で本計画地の利用性は高い。90分圏内の商圏人口が1800万人と非常に多く、スマートインターチェンジが整備される他、ちょうど京都と奈良の中間に位置している。本アウトレットモール開発が東部丘陵地全体の開発推進の起爆剤となるよう、関係者の皆様と連携して着実に推進を図って行きたい。
- ・東部丘陵地の開発を長池地区のみでなく、東部丘陵地全体に計画通りに進めていくためにも、引き続き計画的な修復整備を行い、跡地利用が前進していくよう協力したい。
- ・土地利用を進めていくエリアは日々砂利採取事業を行っているエリアでもあるため、採取事業と修復整備事業、整備計画とのバランスを図りながら、いかにまちづくりを進めていくか、課題もあるが業界としても尽力していく。
- ・山砂利地内の新名神事業が着工されれば、建設発生土の搬入通路と新名神工事車両の進入通路が競合してくるため、できるだけ早い段階で協議を行いたい。アウトレットモールについても、地権者がどの時点でどのように変わるかなど、早い段階で協議をお願いしたい。
- ・新名神城陽-八幡京田辺間ができ、アウトレットモールも進出し、スマートインターチェ

ンジができるなど、城陽の街が大きく変わる。街の商業に対してどういった影響が出るのかという懸念もあるが、この大きな事業を街の活性化、商業の活性化に繋げたい。

- ・現在、新名神の設計協議がほぼ終了し、今回の事業区間である大津-城陽間の用地買収は4割を超えているが、東部丘陵地の買収はこれから。全線の早期開通にあたっては地元との協力が必要となるため、引き続きよろしくお願ひしたい。
- ・国としては寺田拡幅事業を着実に進めていくこととしている。南部への道路整備も十分ではないため、周辺の道路整備や利用状況には常に着目し、必要なものについては優先順位を付けてしっかり造っていきたいと考えている。
- ・城陽市では、東部丘陵地整備計画の見直し、東部丘陵地まちづくり条例を制定するなど、積極的に所用の対策を講じられたところであるが、保安林の復旧など、引き続き克服すべき課題もある。府としても関係機関と連携しながら、府南部の活性化のみならず、府域全体の活性化に繋がるまちづくりに尽力したい。
- ・新名神及びスマートインターチェンジが開通すると、城陽市は府内でも南北交通と東西交通が交差する一大結節点となり、ますますポテンシャルを高めることとなる。スマートインターチェンジと国道24号を補完する宇治木津線の構想も鋭意進めていただいております、木津川右岸の地域整備の起爆剤として、併せて整備促進をお願ひしたい。
- ・地域の人の声に根ざした企業誘致が必要であると考えているが、今後、青谷地区に物流系企業を誘致するにあたり、IOTやAIを活用した高次物流の集積が府南部地域でできないかなど、調査研究をしたいと考えている。
- ・段階的整備が円滑に進められるよう、アウトレットモールの推進を先導役として、物流系企業をはじめとした企業誘致を進めるなど、東部丘陵地や新名神及び関連道路の整備効果を、山城地域全体の地域振興に結びつけられるよう取り組みたい。
- ・立地条件、交通の便を考えると近畿地方でこれだけまとまった土地を将来どういったまちづくりに活かしていくかという議論ができる場所は他にもうない。未来の都市づくりをキーワードに、時間がかかっても次代の子ども達に様々な機能を残すことができるような都市づくりを実現いただきたい。常に近畿圏の地図を頭に描きながら前向きに検討いただきたい。
- ・インフラ整備、アウトレットモール事業についても、順調に進めていただいている中で、市域のみならず山城地域全体の振興となるような、ハードを活かしたソフト対策の取組をしていきたい。

### 3 今後の進め方について

○本協議会は定期的な開催ではなく、全体の意見交換や情報共有が必要となったタイミングでの開催とし、具体的な課題等がでてきた場合に開催することとなった。